

安全衛生管理の取り組み

三井金属グループでは働くすべての人々の安全と健康の確保が、事業活動を行う上で最も重要であると認識し

安全衛生基本方針と 安全衛生行動計画

三井金属グループは2001年4月に「安全衛生基本方針」と「安全衛生行動計画」を策定し、この行動計画に沿って安全衛生活動を推進しています。毎年年末には1年間の安全活動と安全成績を解析して総括し、その結果に基づいて翌年の「全社安全衛生基本目標と基本目標を達成するための重点実施事項」を決定しています。

2008年 全社安全衛生基本目標

●全社安全衛生基本目標

各個人が「作業変化点KY」を常時実践し、KY活動を定着させる

●基本目標を達成するための重点実施事項

- ①全ての職場で、4R-KYTの訓練を月1回以上行なう
- ②朝礼等で、重点KY(*1)を日常的に実施する

*1 予め決めて標示した重点指差呼称項目をただ唱和するのではなく、危険予知(4R-KYT、SKY、1ポイントKYT等)を行なっていること

- ③自問自答カードで一人KYを習得し、「作業変化点KY」に繋げる
- ④管理監督者は問い掛けKY、個別KY、健康KYで指導する
- ⑤危険への感受性を高めるための安全教育(*2)を計画的に実施する

*2 体感教育、法令研修、資格取得、新人教育、未熟練者教育、請負者教育、設備構造教育、MSDS教育、災害速報説明 等

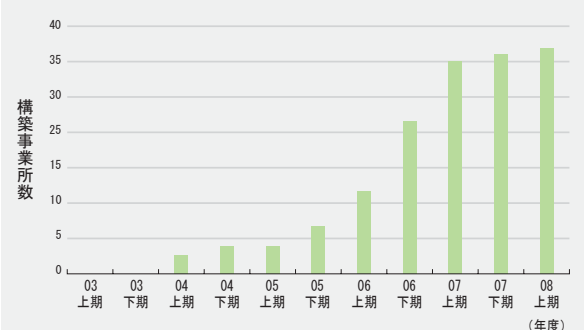
- ⑥KY委員会等を組織化し、停滞、衰退、マンネリへの対応を行なう
- ⑦KY活動をRAと共に先取り安全の両輪として位置付け、マネジメントシステム文書に明文化し、継続的に実行する

労働安全衛生 マネジメントシステム

三井金属グループでは労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS18001)を安全で働きやすい職場環境を作り上げる仕組みとして安全衛生行動計画に織り込み、全所社での構築を進めてきました。

2008年7月で対象とする37所社すべての構築が完了しました。引き続き、システムの改善に向けて取り組んでいます。

OHSAS18001 構築実績



安全衛生管理の取り組み

労働安全衛生 関連研修会と 安全監査

労働安全衛生法令遵守を推進するため、2004年から全所社を対象に労働安全衛生関連法の研修会を開催しています。

2007年は、安全衛生関連法令の現場担当者の研修会を4所社で開催するとともに、各所社での現場実践教育、本社での階層別安全教育・研修、請負工事安全管理の研修会を開催しました。

また、リスクの高い所社では毎年1回、その他の所社でも2年に1回は巡視するよう計画を立て、安全監査を実施しています。現地ではリスク評価、危険予知、ヒヤリハットなどの安全活動の実施状況、労働安全衛生法を遵守した設備であるかを確認すると同時に、システムとの整合性をチェックし、システムの定着を通して各所社の安全成績向上のための取り組みを支援しています。

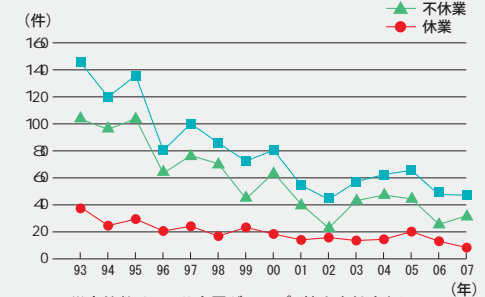
2007年は27所社の安全監査を実施しました。

安全成績

2007年の全社災害件数は46件でした。そのうち、休業災害は9件と減少傾向にはあります。ここ4～5年の災害件数は50件前後と横ばいで推移しています。

災害の分類では「不安全行動」起因の災害が85%と例年同様に多く、災害の型別では「挟まれ・巻き込まれ」が35%と最も多い状況です。足元の問題として、「挟まれ、巻き込まれ」の災害が減らないこと、「50歳以上」の災害、「経験5年未満の経験の浅い人」の災害が増加傾向にあることがあげられます。

全社災害件数推移



安全の取り組み

三井金属グループ各所社では災害予防（予防安全）に重点を置いて取り組んでいます。リスクアセスメント (RA) を実施し、リスクの大きい不安全状態にある設備を改善するとともに、危険予知 (KY) 活動で不安全行動が原因の災害を低減する活動を継続しています。

各所社では、安全衛生意識の向上を図るため、「目に訴える安全の仕掛け」を展開し、全社統一の「安全基本ルール」や「安全最優先」の大型掲示板の標示、災害発生場所の標示、横断歩道や階段での指差呼称項目（右ヨシ左ヨシ、手摺り持つヨシ）の標示、安全パトロール時の赤・黄色のチョッキ着用などを実施しています。さらに、ベル・パトロール、定時の安全放送などで「耳に訴える安全の仕掛け」にも工夫を凝らしています。



安全最優先の標示（セラミックス(事)）